

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.1 5 6】
添付ファイル: デパスの取り締まりが「遅すぎた」と言われる訳 _ 「合法薬物依存」の深い闇 P4_ 東洋経済オンライン _ 経済ニュースの新基準.pdf; デパスの取り締まりが「遅すぎた」と言われる訳 _ 「合法薬物依存」の深い闇 P3_ 東洋経済オンライン _ 経済ニュースの新基準.pdf; デパスの取り締まりが「遅すぎた」と言われる訳 _ 「合法薬物依存」の深い闇 P2_ 東洋経済オンライン _ 経済ニュースの新基準.pdf; デパスの取り締まりが「遅すぎた」と言われる訳 _ 「合法薬物依存」の深い闇 P1_ 東洋経済オンライン _ 経済ニュースの新基準.pdf; 東京新聞_<東京NEWS 2019> (8) 薬物事件相次ぐ 若年層に拡散 依存深刻_東京(TOKYO Web).pdf; 法務省: 令和元年度「ブロック別再犯防止シンポジウム」の開催予定.pdf; 薬物依存「再発防止へ地域や人のつながりを」福岡でシンポ (松本俊彦) - 毎日新聞.pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約 300 カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。
本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1)新規の情報提供希望者が身近におられた場合、**BYA-HP の「お問合せ」** をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2)有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3)情報の中で「**拡散すべき情報**」があれば、皆さんの判断で「**転送・SNS 拡散**」してください。
- (4)また、皆さんが支援する政党があれば、**ベンゾジアゼピン薬害の実態を政党にお伝えください。**

【目次】

1. 新年に当たり、短歌一句
2. デパスの取り締まりが「遅すぎた」と言われる訳 (**4 件添付**)
3. 「薬物依存なんて言い訳」暴力団幹部が語るその意味は? (**2 件添付**)
4. 薬物事件相次ぐ 若年層に拡散 依存深刻 (**添付**)
5. ベンゾジアゼピンの副作用及び治療の体験集 (**追加掲載**)

【記事】

1. 新年に当たり、短歌一句
最近、ベンゾジアゼピン副作用の厳しい状況をお聞きしました。自分の体験からその辛さが偲ばれます。その心境を詠むと、以下のとおりです。

ベンゾ薬 誰が飲ませた 依存薬
飲むのも地獄 止めるも地獄

2. デパスの取り締まりが「遅すぎた」と言われる訳 (**4 件添付**)

<https://toyokeizai.net/articles/-/321517>

以下引用

『そして同課 (当時の名称は安全対策課) は 2017 年 3 月、ベンゾジアゼピン受容体作動薬について、医療上の必要性があつて承認をうけた用法・用量の範囲内で使用しても、漫然とした継続投与で依存性が生じることがあるとして、デパス (エチゾラム) を含む 44 成分の添付文書を改訂するよう、製薬業界団体である日本製薬団体連合会に通知で指示した。通知を受けて 44 成分の添付文書には、「重要な基本的注意」の項目に「漫然とした継続投与による長期使用を避ける」「投与を継続する場合には、治療上の必

要性を十分に検討する」との旨、「重大な副作用」の項目に「薬物依存が起こり得る」旨を追記することになった。これは**常用量依存に対して行政が初めて発した警告**として注目されたものの、精神科専門医などからは「遅きにすぎる」との批判も浴びた。』(1頁)

『ちなみにこのときは同省所管の独立行政法人・医薬品医療機器総合機構(略称・PMDA)の調査に基づき、2016年6月30日までに製造販売業者が入手した国内での依存関連事象の件数を一部公表したが、最多はデパス(エチゾラム)の720件だった。この件について医薬安全対策課に現在の実態把握やその後の対策などを尋ねたが次のような答えが返ってきた。「**常用量依存の実態については、現時点では2017年3月に発表した内容以上の情報はこちらもち合わせていない状況です。また、この件についてこれ以降何か特別な動きをしているわけではないので、これ以上新たな対策などの情報もありません**」』(3頁)

デパス(エチゾラム)が第3種向精神薬として規制されたのは2016年であり、デパス発売から26年も経過している。MHLWは「2014年の実態調査に基づいて、2016年に規制に加えた」とするが、実態調査の開始まで24年間が経過している。そのような遅い調査が医療事故を防止できるだろうか?MHLW当局の「**怠慢**」としか言いようがない。精神科病院におけるベンゾジアゼピン依存・乱用の実態調査をしているNCNPでさえ、1990年にはデパス乱用を報告している。結局、「**ベンゾジアゼピン乱用**」は「**患者が勝手に過量服用している**」として患者に責任を押し付けてきたことが、**規制対応が遅れた最大の原因である**。本来、DSM-5に基づくカプラン臨床医学テキスト(692頁)によれば、「乱用」とは:『通常は自己投与による、社会的もしくは医学的に適切な使用から逸脱した方法による薬物使用』と定義されており、**薬物耐性が生じた結果、同じ効果を得ようとして過量服用に至る医原性疾患である**。

したがって、ベンゾジアゼピンに関して以下の3つの大きな問題を含んでいる。①乱用≠患者が指示どおり服用せず勝手に増量服用しているわけではない。このように、ベンゾジアゼピン副作用(常用量依存=臨床用量依存)に実態を正確に把握しようとしていない日本の精神科医に大きな問題がある。また、②すでに米国では、**ベンゾジアゼピンによるアディクション(日本語訳は「嗜癖」)**は**医原性アディクション**であることが明らかにされている。さらに、③日本で問題なのは**ベンゾジアゼピン依存・乱用に関するNCNPの調査が精神科病院のみを対象にしていることである**。すでにMHLWの中医協で明らかにされているとおり、**日本国内のベンゾジアゼピン処方量は内科等の一般診療科で65%が処方されており、NCNPの調査は「大量処方されている診療科が抜け落ちている」**ため、調査として不備があり、実態を調べていない。

これらが「ベンゾジアゼピン薬害」が、薬害史上最大の被害者を生んでいる所以である。

3. 「薬物依存なんて言い訳」暴力団幹部が語るその意味は?(2件添付)

<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20191228-00000015-pseven-soci>

以下引用

『暴力団幹部は憤慨する。

「クスリは外を歩けばどこにでも売っているモンじゃない。食事に行けばメニューにズラリと載っている酒とは違う。薬物が手に入りやすい環境にあった、誘惑がたくさんあったんだらうとコメントするやつがいるが、あれはクスリをやったことがない人間の言うたわ言。欲しいやつらは、自分から誘惑されに行くんだよ』

『暴力団幹部は田代まさしを例に話す。「ムシヨにいる間、やめられるんだから依存なんかじゃない。彼は何度も務めているが、1度でも禁断症状で病院に運ばれたり、幻覚で精神がおかしくなったことがあるか聞いてみたいもんだ。拘禁生活中は朝起きて、作業して、飯食って寝るだけ。何らかの治療があるわけでもない。ただ、自由がないだけでね」

「**覚せい剤は身体が要求するものではなく気持ちの問題**。社会に出て自由を手にした途端、気持ちが弱くなるんだらう。ムシヨでは普通に生活してたくせに、出てきた途端、毎日が薬物をやめるため自分との闘いだ、などとよく言えたもんだ』

『**気持ちの問題、まさにそこが依存の原因ではないかと思うが、薬物が入手しやすい環境にいる暴力団幹部はこう断言する。「やめようと思えばやめられる。俺の周りみんなやめたよ」**

薬物依存症といえば治療が必要な病気というのが一般的な認識で、依存者がいるのも確かだ。だが暴

力団幹部の話を知っていると、違法薬物使用を繰り返す者、長期間使用し続ける者にとって、薬物依存というラベリングはクスリに手を出す時の都合のいい言い訳、免罪符でしかないのかもしれない。』

この記事と読むと、NCNP 松本俊彦が「違法薬物依存患者の治療ため、違法薬物使用の非犯罪化・無刑罰」を提唱するのが、**真っ赤な出鱈目**であることがわかる。違法薬物の再犯者は「薬物の快感を忘れられない」だけであろう。

この件により

- ①違法薬物使用の非犯罪化・無刑罰は、事実上、あり得ず、松本俊彦が大量の若年層の違法薬物患者を作り出し、精神科病院の患者を増やす計画は無駄になった。
- ②また、松本俊彦は、大量の精神科病院向けの違法薬物使用患者という優良顧客を生み出すことはできず、事実上、次期 NCNP 総長・理事長にはなれない。
- ③近々、捜査当局（麻取部&警視庁組織犯罪対策第五課）が NCNP 及び松本俊彦の近辺に隠れている違法薬物使用者を摘発することになる。

4. 薬物事件相次ぐ 若年層に拡散 依存深刻（添付）

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/tokyo/list/201912/CK2019123002000091.html>

以下引用

『警察庁によると、昨年薬物事件で摘発されたのは約一万三千八百人で近年横ばい。だが、大麻の摘発者数は過去最多の三千五百七十八人で、半数以上が二十九歳以下だった。大麻は「ゲートウェードラッグ」と呼ばれ、覚醒剤など他の薬物の乱用につながりやすい。』

この状況下で松本俊彦が主張する「違法薬物の非犯罪化・非刑罰化」を図れば、**爆発的に「違法薬物が若年層に拡大」するのは必至**である。

松本俊彦の真の目的は「違法薬物使用患者を増やしたい」だけである。

5. ベンゾジアゼピンの副作用及び治療の体験集（追加掲載）

No.10 体験者（Y.O.）

<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/%E3%83%99%E3%83%B3%E3%82%BE%E3%82%B8%E3%82%A2%E3%82%BC%E3%83%94%E3%83%B3%E3%81%AE%E5%89%AF%E4%BD%9C%E7%94%A8%E5%8F%8A%E3%81%B3%E6%B2%BB%E7%99%82%E3%81%AE%E4%BD%93%E9%A8%93%E9%9B%86/>

皆さんもご自分の体験をお送りください。出来れば、減薬の取組などがあれば他の方の参考になります。躊躇せずに、病状の実態を公開しましょう。

必ず、今後の事態の打開につながると思います。

本メールアドレスへ本文打ち込みでお送りください。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史